

笑いながら学んだ 江戸の暮らしと文化

第5回江戸城再建セミナー報告



第5回目を迎えた江戸城再建セミナーは、2008年6月4日(水)、これまでと趣向をがらっと変え、落語家の三遊亭竜楽師匠をお迎えし、笑いを交えながら楽しく勉強しました。題して「落語に学ぶ江戸の暮らしと文化」。場所は六本木のハリウッド美容専門学校。これまでの講演会と異なり、会場に落語用の高座と講演用の演壇を二つ設けました。

師匠の講演は、先ず演壇で話されてから高座に移り、今度は坐られて先のお話と関連のある落語を咄(はな)される。落語実演を取り混ぜながらの講演会はおそらく日本でも稀有で、師匠も初めてのこととのことでした。以下、お話の触りを・・・

落語の起源を尋ねると・・・、13世紀頃の宇治拾遺物語等に収められている話などを公家が家来におもしろくもなく聞かせたとか・・・。更に時代は下って戦国時代、戦場では意外と暇な時間があり、武将に面白い話をするお伽衆がおり、曾呂利新左衛門もその一人とか・・・。

江戸落語を通してみる江戸人の暮らしは、精神的には余裕があり、従って、人を活かし、弱者に優しく、且つまた自然に優しいリサイクルな暮らし。その背景には、江戸時代は政治が比較的安定した農業社会。江戸八百八町では、長屋の住民は無税で土地所有者が税負担。一方、江戸の土地の3



分の1に町民がひしめきあいながら住んでおり、トイレ、井戸、ゴミ箱などは共同使用。従って、長屋の住民は仲良くせざるを得ず、弱者を助けながらそこに協調の精神が涵養された。能力の劣った「与太郎」も普通の人と一緒に住み、与太郎を遊びに誘い、お嫁さんも世話する。仕事も能力に応じて世話する。与太郎のような人も住むところはふんだんにあった。親は道楽息子を勘当にはするが、出入りの親方に弟子入りさせて心を入れ替えさせる。リサイクルな社会で、庶民は普段着を「古着屋」さんから買い、「子供用」に仕立て直し、それで着れなくなったら「手



ぬぐい」にし、それは更に「雑巾」となり、最後は燃やして「肥料」となる。屑屋さん、古道具屋さんには立派な商い。(落語のお好きな方は、もう、何題もの噺の場面が浮かんできているのではないのでしょうか。一時間半のセミナーで、数々の小噺と「金明竹」と「井戸の茶碗」の二席をたっぷりと聴かせていただきました)

師匠の講演と落語は午後6時半から8時過ぎまで参加者を魅了し、その後、会場は懇親会場に早変わり、9時まで師匠と参加者との楽しい歓談が続きました。(文責:金成秀幸理事)

<セミナー参加者コメント>

宮前直幸さん(会員):江戸城再建セミナーには、毎回楽しく参加させていただいております。今回は、江戸の暮らしと文化をテーマにした「落語」ということで、軽い気持ちで参加しました。竜楽師匠の軽快な落語によって会場が笑いに包まれるとともに、知らぬ間に江戸時代にタイムスリップした様な、何とも心地よい感覚を味わいました。こんな笑いあり、笑顔ありの再建セミナーもたまには良いなと思っていたのですが、やはり当会セミナーはこれだけでは終わらないのですね。「江戸時代は、人、社会、環境を大事にする風潮があった」という話には、大変に感銘を受けました。これぞ江戸城再建の意義。アップレ!

